

経営と健康

第3回

日本ロータリークラブ創立者 米山梅吉

講談師 一龍齋貞花

友愛の精神で、社会に貢献したいという強い信念から、大正九年日本ロータリークラブを創立した米山梅吉。

東京に続いて、大阪、神戸（松方幸次郎・川崎造船社長、松方コレクショ）、名古屋（伊藤次郎左衛門・松坂屋百貨店社長）、京都（武田五一・日本を代表する建築家）、横浜（大久保利賢・横浜正金銀行頭取・大久保利通子息）、広島、札幌（佐藤昌介・北海道大学総長）、福岡、小樽、岡山、門司（出光佐三・出光石油創業者）、今治、函館、旭川、帯広、岐阜、金沢、徳島、静岡、四日市、室蘭、浜松、郡山、長崎、釧路、仙台、和歌山、西宮、松山、高松、野付牛（北見市）、高知、盛岡、熊本、新潟、宇都宮。三七都市、城下町が大部分を占め、各クラブのうち主な人物をあげましたが豪華なメンバー。入会

条件に「国際人で英語に堪能であること」が不文律化されていた。このほか日本の影響下にあった朝鮮、台湾、満州にも日本人を主な会員とする、京城、大連、奉天、ハルビン、台北、高雄、新京、釜山、基隆、平壤、大邱と、各市に次々とクラブが創設されていきました。

しかし戦局風雲急を告げ、国際的つながりのある組織の存続が許されず、昭和十五年九月十一日、国際ロータリークラブから離脱し解散。

昭和二十年八月十五日、長かった戦いに終止符が打たれ、昭和二十四年三月日本ロータリークラブ復活。

この二年前の二二年、創設者ポール・ハリスが亡くなると、国際ロータリーに寄付が寄せられ、ポール・ハリス基金として、国際ロータリー財団発展への

の基金となりました。

米山が会長を務めていたある時、「次週の例会は、祝祭日に当たるので休会します」

すると、出席会員から喜びの拍手が起きると、いきなり

「休会を喜ぶとは何事です」

と、立派な会員たちをたしなめたといえますから、融通がきかないほど、熱意を持っていたんでしょう。

米山が、信託銀行のことを知ったのは、アメリカ留学中の二三歳の頃。その後商売を通して、社会へ奉仕、公益精神の気持ちが高まるにつれ、日本でも本格的な信託業務を行いたいと考え、大正十三年（一九二四）三月二五日、日本最初の三井信託株式会社を設

立し社長に就任。米山が日本の信託銀行創立者です。

信託とは、信じて託す、人間の信頼関係を基にした社会奉仕、公益事業の仕組みです。

その後、信託協会会長を務めるなど、信託業務の推進をはかり、発展に尽くしたのでございます。

日本最初の地下鉄浅草線が、三井信託の融資で完成、今日の地下鉄発展の基になりました。だから三越前という百貨店の駅名も出来たんです。

新入社員には、ポケットマネーで毎年名刺入れをプレゼントし、お客様に対し、奉仕の心で常に前向きな開拓心をもって当たるようにと、三井信託の社は「奉仕と開拓の精神」を教え諭しました。

昭和十一年三井信託会長、並びに信

託協会会長を辞任し、三井財閥が、社会文化事業として設立した三井報恩会理事長に就任し、「三井は儲けるべからず散ずべし」をモットーに掲げ、ガン研究所への支援、全国ハンセン病療養所を慰問し、ベッド三千床助成。結核患者のための五百人を収容する村松晴嵐荘を建設。国民健康保険法制度実施を推進。その他多くの社会文化事業を行い、また学生の奨学金問題が問われていますが、志を持つ青年へ、匿名で返済金なしの学資援助を行い、青山学院校友会会長を引受けるや、私財を投げ出して小学校を建てて寄贈。

妻の春子も、幼稚園を開設し自ら園長を務めるなど、社会奉仕につとめる夫婦でした。

奨学助成事業

米山の学資援助の志を受けついで、一九五二年に、東京ロータリークラブで始められた奨学助成事業は、やがて九万人のロータリアンが支援し、日本の全クラブの共同事業に発展し、日本で学ぶ外国人留学生を支援する米山

記念奨学財団となり、年間支援学生七〇〇人、これまで世界一二二か国、一万七五六五人を支援。各クラブの中にも外国人をホームステイで留学支援も行われており、こうして育った各国の人達が、奉仕の精神を共有し、世界平和につながっているのです。

ロータリーの観念は世界平和です。七二歳の時、勲四等瑞宝章受章。今ならもつと上位ではないでしょうか。戦争が激しくなり、一九年静岡長泉村に疎開。

そして終戦の翌年、昭和二年四月二八日、

「戦争もやつと終わつた。皆の力で盛んになったロータリー、解散はしたが、必ず復帰してもつと栄えさせてくれるに違いない。少しは社会に奉仕出来たかと思うと、こんなうれいことはない」と、言い残し七八歳で帰らぬ人となりました。

お墓は、鶴見の総持寺と、長泉町にあります。

偉業を顕彰する米山梅吉記念館が、昭和四四年、長泉町米山家の屋敷跡に開館、全国からロータリアンはじめ、

多くの人々が訪れその偉業を偲んでいます。平成二年（一九九〇）四月には全国から寄せられた基金によって銅像が建てられました。

二〇一五年現在、ロータリークラブは、世界三万五二二一クラブ、一二二万八〇七六人。このうち日本は、二二六九クラブ八万九三三八八人。うち東京は、一七〇クラブ七八六四人、人口のわりに多くはないでしょうか。十八歳から三十歳までの青年男女のロータリーアクトクラブ、世界八四三六クラブ十九万四〇二八人。

十二歳から十八歳までのインターアクトクラブ、世界一万八六六一クラブ四二万九二〇三人という多くを数え、奉仕の精神を受け継ぎ活動を続けています。

ただし、銀行の支店長は、その地域のクラブに加入していましたが、バブル崩壊、リーマンショックなどによる貸し倒れから脱会し、多くの銀行マンが加入していません。もちろん継続加入を認めている銀行も少なくありませんが、バンカーマン米山は、泉下でさ

ぞ嘆いていることでありましょう。

私事で恐縮ですが、収益を寄付するチャリティー寄席が二五回を数え、東日本大震災に今も職員四名常駐させて復興に当り、五年半で約十億円の援助を行っている公益財団法人や、訪問看護財団、保護司として更生のための観察協会に寄付しているが、毎年パナソニック㈱エコソリューションズ社（ホーム保安灯を寄贈して頂きオークション）や、山崎製パン㈱はじめ各社協賛して頂いているお陰（年々協賛会社減少）。奉仕の精神を語っている者として実践しなければの思いから。これからも続けていきたいと思っております。

各クラブの卓話で、この「米山梅吉物語」を口演しています。ご遠慮なくお申し付け下さい。（卓話料はわかっています）

日本ロータリークラブ創立者、社会奉仕に生きた米山梅吉物語の一席。■